



日本防災士会福井県支部

福井県防災士会会報

第4号

2008.11.30

「防災士会岐阜県支部」と交流

設立総会の「設立について」の中に挙げた会員研修と他団体との交流の年内企画・実施を考えていた。今年は福井震災 60 年であるが、地震に関するアーカイブは多々発掘・紹介された感がある。県内にも被害のあった濃尾地震の際に出現した断層をそのまま観察できる施設が隣県の岐阜にあることは承知していた。

9月に入って日本防災士会の幹事でもある加藤博史岐阜県支部・事務局長に、岐阜県の研修の際において意見交換の可否について問い合わせたところ、西田正文支部長等との話し合いを経て、11 月末の土曜日に日程が候補に上がった。

当日福井高専で7名、鯖江駅で2名がマイクروبスに乗り込み7時40分に出発した。高速道路、国道157号を経て約3時間後、総勢20名近くの岐阜県支部の会員が迎えるなか根尾谷断層博物館に到着した。

支部長等の挨拶後、岐阜県側の準備周到な配慮により、約1時間の館内見学のと、近くのうすずみ温泉施設において昼食をかねての意見交換会が総勢30名で行われた。

根尾谷断層博物館は約6mの断層のトレンチを館内に展示するもので、世界にも稀有な施設になっている。子どもが主人公である映画を視聴しながら、ゆれを体験できるコーナーは防災教育に有効と思われる。

意見交換会では、両県共通の課題点や、地域的特性やそれぞれの地域での役割の差異等が話された。また、岐阜県の資料と福井県の会報誌の交換等が行われた。

午後2時過ぎに研修を終了することにして帰路についた。全行程350km前後のバスによる研修旅行であった。

最後に岐阜県支部長・事務局長、岐阜県職



▲岐阜県支部の方々との記念撮影 11/29

(後ろに見えるのが根尾谷断層(高低差約6m))

員2名他、支部の方々のご配慮とご参加にはここで謝意を表します。写真提供は岐阜県支部の渡辺志朗氏です。(荒)

福井ぼうさいの仲間 #03

氏名 漆崎 東志夫(うるしさき としお) (58)

職業・勤務先 福井春日郵便局長

防災士になるきっかけは？

平成16年7月の福井豪雨で足羽川の堤防決壊による水害を被災者として体験し、防災についての関心を強くしました。平成15年から全国郵便局長会が地域貢献のための施策として防災士研修に取り組んでいることから、16年11月の研修を受講しました。

防災士になってよかった事と思うことは？

防災士になってから、防災、減災について常に意識するようになったことです。福井県防災士会の仲間に入れて頂いて、様々の分野の方々と知り合う事ができ、色んな考え方、物の見方、捉え方がある事を知り、大変勉強になります。

防災士として、今後取り組んでみたいことは？

防災、減災に関する啓蒙活動

防災士以外であなたの「得意なこと」や「日頃がんばっていること」は？

得意なことは別に無し。職業柄、地域活動には特に力を入れていることは民生・児童委員。

研修旅行を終えての感想(抜粋)

○濃尾地震で、はるか福井県にまで渡って断層が発生したと知り、災害に県境はないことを再認識しました。今回は岐阜県支部の防災士の方々と交流会でしたが、県内外の他団体とも交流・協力していきたいですね。あらためて防災力向上に努めたいと思います。有意義な一日でした。(木)

○午前10時20分過ぎに研修施設である地震断層観察館(国指定特別天然記念物根尾谷断層)に到着した。福井にこのような施設はない。地震体験館・地震断層観察館等を見学、昔の址を見るにつけ後世に伝えていかなければと感じた。(黒)

○根尾谷地震断層観察館にて濃尾地震を今に伝える3D映像。自分に向かって柱が壁をつき破って向かってくると同時に起震装置にて地震を体験。迫力満点の映像でした。その後、6mに及ぶ垂直に断ち切られた基盤岩石の断層トレンチ見学し、先ほどの映像と相まって当時の地震の威力に圧倒されました。(片)



関西ライフライン研究会主催 「地震防災フォーラム」で講演

福井高専環境都市工学科の吉田雅穂准教授も会員である「関西ライフライン研究会」が福井で地震防災フォーラムを開催されるにあたり、講演依頼を受けた。当初は福井震災を受けて・・・というタイトルであったが、「住民主体の地域防災」で30分の講演を行った。

フォーラムは他に県下の地震活動状況や木造住宅の耐震化の話題や、阪神・淡路大震災の火災状況やライフラインの復旧等の話題があった。地震の知識や耐震化の備えに加えて、生き延びた被災者がその生存の基盤を奪われた状況において、ライフラインの緊急性・重要性に注目を促す内容であった。

(財)福井女性財団主催

ふくい女性塾「防災(災害復興を含む)」

8月中旬に上記のことに関して、依頼ではなく、相談を受けた。内容については、4時間×6日の時間設定であらかじめ用意されていたが、それに対する意見・プロポーザルが出発点であった。防災についての研修で合計24時間のものは県下ではあまりなく、未経験の点もあった。カリキュラムのうち、災害概論・行政対応・ワークショップの部分を担当した。9月末から12月初旬の土曜日の午前・午後に、講義、体験談、視聴覚資料、体験型学習(防災施設体験・普通救命講習)等様々な学習形態を利用し、最終日にはワークショップで学習成果を確認することができた。延べ参加者数は100余名であった。

編集後記

落雷による被害が全国的に多く発生しており、昨年の2倍以上のスピードで被災報告がされています。福井県も落雷による住宅火災が発生するなど、多くの災害が発生しています。先日も近くで落雷があり、子供に「カミナリになったら、どうすればいい?」って聞かれて、すぐに答えられなかった自分に「訓練や再確認しとかなければ、いざって時に役に立たない」って言い聞かせました。(西端)

県内の会員数

(2008年11月30日現在)

福井県防災士会 049名

日本防災士会 046名

防 災 士 322名

編集担当 福井県防災士会 広報・啓発担当

住 所 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

福井高専環境都市工学科内

Eメール bousaisi@fukui-nct.ac.jp

Webサイト <http://toshichan.be.fukui-nct.ac.jp/bousaisi/>